


研究者総覧：陳 朝輝 (CHEN,Zhaohui)

氏名	陳 朝輝 (CHEN,Zhaohui)	
職名	准教授	
所属講座	国際多元文化専攻東アジア言語文化講座	
学位（専攻分野）	博士（文学）・東京大学	
メールアドレス	chen at lang.nagoya-u.ac.jp	
個人のホームページ	http://user.qzone.qq.com/1827904271/main	
研究分野	近代中国文学	
	日中比較文学	
	プロレタリア文学	
現在の研究テーマ	魯迅の比較研究、日本作家訪中団が見た中国	
所属学会	現代中国学会	
	東方学会	
	中国日本文学研究会	
主要著書・論文	陳朝輝（2004）：『魯迅と上田進』、東方学 107 輯、pp. 137-152。	
	陳朝輝（2008）：『魯迅と藏原惟人』、東方学 117 輯、pp. 118-156。	
	陳朝輝（2009）：『魯迅が見た日本プロレタリア文学』、国文学・学燈社、pp. 17-29。	
	陳朝輝（2011）：『论《毁灭》从翻译到重译——再谈鲁迅与藏原惟人』、魯迅研究月刊・北京、pp. 55-64。	
	陳朝輝（2013）：『片上伸在中国』、魯迅研究月刊・北京、pp. 62～69。	
自己紹介文	<p>「文学」はあくまでも「芸術」であるから、「趣味本位」で接するしかないでしょう、と言われるかもしれません。しかし、私には「それだけ」ではどうしても「物足りなさ」を感じてしまうのです。「趣味というものはどこから生まれるか？」と問い始めるとキリがありません。簡潔に言えば、「趣味」の上位にある文学にも、「感情」的な要素からくる「芸術性」と「環境」的な要素からくる「社会性」というものがあるように私には思えます。この考え方が私と「文学」との出会いであり、また、これまでの私の研究における主たる視点となっています。そして、私は「社会と文学」の関係をもっとも深く捉えた魯迅文学とプロレタリア文学に出会い、当然の成り行きとして卒業論文から博士論文まで、研究テーマがこのラインから離れたことはほとんどありません。今後もしばらく、この文学と社会の関係について考えていく予定です。</p>	

	<p>1998年に文部省交換留学生として初めて日本に来てから、山形大学に前後併せて5年、東京大学に5年、熊本学園大学に1年半、それから中国の天津市にある南開大学に6年（この間も台湾の明道大学に半年、愛知大学に3年弱派遣）と、決して意図的ではありませんが、「時の流れに身を任せ」てみたら、私の人生はこんなにも流転するものとなってしまいました。そして2016年から、「哀しくて目を開ければ」、嬉しいことに名古屋大学へ移ってくることになりました。これまで暖かく接して下さって方々すべてに感謝の意を込め、今度こそは教育と研究に落ち着いて勤しみたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>受験生へのメッセージ</p>	<p>「儲かりたい」と思っている人には、あんまり「文学」の道をお勧めしません。ましてや、文学の「創作」ではなく「研究」の場合は猶更です。</p> <p>その代わりに、静かに「悩み」を楽しめたい、あるいはその「楽しみ」を表現したい、その「表現」の仕組みを考えてみたい、等々——言い換えるならば、人生の「虚」の部分で「実」感してみたいと考えている方に、あるいは「古池や蛙飛びこむ水の音」に対して、ある種の生き甲斐を感じられる方に、文学研究ができる講座（博士課程の前期および後期）への入学・進学をお勧めします。</p> <p>もちろん、「文学は男子一生の事業と為すに足らず」と言った（らしい）二葉亭四迷にイチャモンをつけて、「今私が文学で世の中を変えてみせる！」と大きな志を持ってチャレンジしてくる人も、大歓迎です。</p>